

V-4

人文科学の軽視—そんな社会に未来はあるのか

テーマⅢでは「持続可能性」について考えました。そして、Ⅲ-5 では「文化的持続可能性」を取り上げ、それに続くⅢ-5とⅢ-6では教育や研究の重要性について考えました。それらの内容とも関係しますが、今回の資料では人文科学の問題を取り上げたいと思います。

資料を読む進めていくと出てきますが、人文系の学問とは人間とは何かを問うものであり、あるいは人間の手や心を通して姿を現す世界というものについて考えることを目的とします。そもそも学問や科学そのものが人間に固有のものだといえますが、その主体だけではなく対象となるのも人間であるというのが人文科学の大きな特徴です。

その人間を「世界の中心だ」とみなすことによって、環境問題はじめ多くの問題が引き起こされてきました。そうであれば、今必要なことは世界（地球、宇宙）における人間の位置づけについて考え直すことです。あるいは消費という行動が人間生活の中心となっていることに対して、人間にとってもっと重要であるはずのことを明確にすることが求められるはずです。そして、そのような事柄について考えることに大きく貢献できるのが人文科学だろうと思います。そこから、この資料の題名へと結びつきます。つまり、人文科学を軽視するような社会にはたして未来などあるのだろうか。そういう疑問、あるいは危機意識が本資料を作成する動機です。

【1】バルト海の問題を引き起こしているのは水ではなく人間だ

- Vasta viime aikoina on havahduttu siihen, ettei maailmaa pelasteta pelkällä teknologialla. Ihminen ja sen käyttäytyminen sekä arvot ovat kaiken taustalla.

Esimerkiksi Itämeren suojeluun kohdistuvasta tutkimusrahoituksesta 90 % menee edelleen veden tutkimukseen. Ongelma ei kuitenkaan ole vesi, vaan ihminen.

■ 語句・文法

viime aikoina「最近になって」／on havahduttu「目覚めた、気づいた」受完 < havahtua ⇒ havaita／siihen, ettei「～でないことへ」(siihen[入]< se, ettei = että ei)／ei pelasteta「救われない」受現否 < pelastaa／pelkällä teknologialla「単なる技術によって」[接]< pelkkä teknologia／käyttäytyminen「行動すること、振る舞い」動名 < käyttäytyä／taustalla「背後に」[接]< tausta ⇒ taka-／Itä-meren「バルト海の」[属]< -meri／suojaan「保護へ」[入]< suojelu < suojella < suojata < suoja／kohdistuvasta「向けられるような」[出]< kohdistuva 能現分 < kohdistua < kohdistaa < kohde／tutkimus-rahoituksesta「研究資金のうち」[出]< -rahoitus「資金」< rahoittaa < raha／edelleen「依然として」

● フィンランド語理解のための訳例

— やっと|最近になって|目覚めた|<次> [ではないことへ|世界は|救われる|単なる|科学技術によって]。人間は|そして|その|行動することは|さらに|価値<観>は|ある|すべての|背後に。

たとえば|バルト海の|保護へ|向けられるような|研究資金のうち|90%は|行く|依然として|水の|

研究へ。問題は|ではない|しかしながら|水、|〈そうではなく〉人間。

◎意識

—最近になってやっと、世界は単なる科学技術によっては救えないということに気づくようになった。人間が、そして人間の行動や価値観がすべての背後にあるのである。

たとえば、バルト海の保護へ向けられる研究資金の 90 パーセントが依然として水の研究へ費やされている。しかし問題は水ではなく人間なのである。

★補足

この資料は 2024 年 7 月の猛暑の中で作成しています。ニュース番組では毎日のように気候変動や異常気象が話題になりますが、「クーラーをつけましょう」という程度の解決策にしか触れられません。そもそもクーラーをはじめとする「便利」な機械を多用することが気候変動や異常気象の大きな要因の一つになっているのではないかとということには触れられません。あたかも気候変動や異常気象が我々とはかかわりのないところで起こっている「自然現象」のようは誤解を生みだします。【1】にあるように、海の問題だけではなく、多くの環境問題は「人間」によって引き起こされているということを明確にしておく必要がある気がします。なぜなら問題を解決するために、その原因を明確にする必要があるように思うからです。

【2】人文科学は問う、「我々は誰であり、何であるのか」を

Humanististen alojen tarkka nimeäminen ja määrittäminen on mahdotonta, mutta historia, filosofia, kielitieteet, kirjallisuus ja antropologia voidaan mainita arkkityyppinä. Ne tutkivat ihmistä ja hänen kulttuuriaan läpi vuosisatojen ja eri näkökulmista. Ne kysyvät keitä tai mitä olemme, keitä tai mitä olemme olleet ja mihin olemme nyt menossa. Humanistisen tutkimuksen avulla näihin kysymyksiin saadaan rajaton kirjo vastauksia, koska ihmiset ovat vastanneet, ja tulevat varmasti tulevaisuudessakin vastaamaan, näihin kysymyksiin lukemattomin eri tavoin.

■語句・文法

humanististen alojen「人文系分野の」[複属] < humanistinen ala / nimeäminen「名前を挙げること、名指しすること」動名 < nimetä < nimi / määrittäminen「明確にすること、特定すること」動名 < määrittää / antropologia「人類学」 / voidaan「できる」受現 < voida / mainita「(名前を)挙げる、言及する」 / arkki-tyyppeinä「典型として、原型として、アーキタイプとして」[複様] < -tyyppi / läpi vuosi-satojen「数世紀にわたって」(vuosi-satojen [複属] < -sata) / näkö-kulmista「視点から」[複出] < -kulma / keitä「誰たち」[複分] < kuka / menossa「行こうとして」[内] < meno < mennä / näihin kysymyksiin「これらの質問へ」[複入] < tämä kysymys / saadaan「手に入る」受現 < saada / rajaton「無限の」< raja / kirjo vasutauksia「多彩な回答を、多様な答えを」(kirjo「多彩、多様」、vastauksia [複分] < vastaus < vastata) / ovat vastanneet「答えてきた」複 3 完 < vastata / tulevat vastaamaan「答えることになる」(”tulla + MA 不 [入]”で未来を表すことがあります) /

tulevaisuudessa-kin「将来においても」[内]+ -kin < tulevaisuus < tulevainen < tuleva 能現分 < tulla/lukemattomin「数えきれないほどの」[複具]< lukematon 否分 < lukea/eri tavoin「異なる方法で」(tavoin[複具] < tapa)

●フィンランド語理解のための訳例

人文系の|分野の|正確な|名前を挙げることは|そして|明確にすることは|不可能だ、|しかし|歴史、|哲学、|言語学、|文学、|そして|人類学を|できる|挙げる|ことが|<人文科学の>|典型として。それらは|研究する|人間を|そして|その文化を|数世紀にわたって|そして|さまざまな|視点から。それらは|問う|[誰|あるいは|何|我々はであるのかを]、|[誰|あるいは|何|我々はであったのかを]|そして|[どこへ|我々は|今|行こうとしているのかを]。人文系の|研究の|助けて|これらの|問いに対して|手に入る|無限の|多彩な答えを、|なぜなら|人々は答えてきた、|そして|することになる|まちががなく|将来においても|答える、|これらの|問いに|数えきれないほどの|異なる|方法で。

◎意識

人文系とされる学問分野の名前を挙げて明確に特定するということが不可能だが、歴史、哲学、言語学、文学、そして人類学などは人文系の代表的な分野として挙げるができるだろう。それらはさまざまな視点から何世紀にもわたる人間とその文化を研究する。それらは、我々が誰であり何であるのか、我々がこれまで誰であり何であったのかを問い、そして我々が今どこへ向かおうとしているのかを問う。人文系分野の研究の助けにより、これらの問いに対して無限ともいえるほど多様な答えを手に入れることができる。なぜなら、これらの問いに人間は数えきれないほど多様な方法で答えてきたし、将来においてもまちががなく答えることになるだろうからである。

★補足

資料Ⅲ-6でもみたように、学問を人文科学、社会科学、自然科学などに分類するのは絶対的なものではありません。とくに人文科学と社会科学を区別しようとするのは、ときには大きな危険をはらんでいるような気がします。たとえば、【2】で人文科学の代表として挙げられている言語学については、言語は話者集団の存在を前提とするという観点から何よりも「社会科学」としてとらえるべきだという考え方もありますし、資料Ⅲ-6の【48】の後ろにある「★補足」で述べたように、言語学は人間という生物の根本的な特徴に迫るという意味で「自然科学」であるとも考えられています。

【3】世界は人間の手や心を通して姿を現すもの

Humanistiset alat eivät tutki kuitenkaan vain ihmistä, vaan myös maailmaa. Maailma ei paljasta itse itseään meille, vaan vain ihmisen käden ja mielen kautta. Varastoimalla ja analysoimalla menneiden vuosisatojen kieliä, kirjallisuutta, uskomuksia, tietoa ja viisauttakin, humanistiset alat selvittävät, mitä maailma on (ollut) ihmisen kokemana ja miten se voidaan kokea.

■ 語句・文法

paljastaa「暴露する、明らかにする」< paljas/itse「自分自身で」/itseään「自分自身を」[分]+
単3所接 <itse/varastoimalla「貯蔵することにより」MA不[接] < varastoida < varasto < vara/
analysoimalla「分析することにより」MA不[接] < analysoida ⇒ analyysi/menneiden vuosi-
satojen「過ぎ去った何世紀もの」[複属] < mennyt vuosi-sata (mennyt 能過分 < mennä)/
uskomuksia「(伝統的な)考え方を、理解を、信念を」[複分] < uskomus < uskoa/viisauttakin「知
恵をも」[分]+ -kin < viisaus < viisas/selvittää「明らかにする」< selvä/on (ollut)「である(であっ
た)」(onは現在形、カッコ内を加えた on ollutは現在完了形)/ihmisen kokemana「人間が経験
するものとして」(kokemana 動分[様] < kokea)

● フィンランド語理解のための訳例

人文系の|分野は|研究しない|しかしながら|ただ|人間を、|<そうではなく>|また|世界を。世界
は|明らかにしない|自分自身で|自分自身を|我々へ、|<そうではなく>|ただ|人間の|手の|そして
|心の|通じて。[蓄積することにより|そして|分析することにより|過ぎ去った|何世紀もの|言語を、|
文学を、|(伝統的な)考え方を、|知識を|そして|知恵をも]、|人文系の分野は|明らかにする、|
[何|世界は|である(<あるいは、これまで>~であったのか)|人間が|経験するものとして]|そして|
どのように|それを|できる|経験する。

◎ 意訳

人文科学の諸分野はしかしながら人間だけではなく世界をも研究するのである。世界は自らで
自らの姿を我々に明らかにするわけではなく、あくまでも人間の手と心を通じて明らかになるのであ
る。過ぎ去った過去何世紀もの間の言語や文学、人々の伝統にもとづく考え方、知識、そして知恵さ
えをも記録し分析することによって、人文科学の諸分野は人間の経験するものとしての世界とはどの
ようなものであるのか、これまでどのようなものであったのか、そしてどのように経験することができ
のか明らかにするのである。

★ 補足

【3】にある「世界はあくまでも人間の手と心を通じて姿を現す」という考え方は、言語学における
「分節」という概念と結びつきます。簡単な言い方をすれば現実世界には明確な「線」が引かれてい
るわけではなく、人間が言語を通じて「線」を引く、つまり「分節」という考え方です。たとえば、現
実世界には最初から「雑草」というものは存在せず、人間がある基準にもとづいて架空の線を引き
「雑草」という分類を生み出し現実世界を「分節」します。また、「分節」の仕方は言語によって異な
っています。たとえば、「蝶」と「蛾」を区別する単語をもたない言語があることからすれば、それら二
つの区別がもともとの現実世界に存在するわけではないことがわかります(フィンランド語の
perhonenも「蝶」と「蛾」の両方を表すと思います)。

それでは、次はデジタル化や人工知能という問題と人文科学の関係ををみていきましょう。

【4】機械やデジタル化には何ができるのか、できないのか

- Olen ehdottomasti sitä mieltä, että osaamistamme tarvitaan tulevaisuudessa entistä enemmän. Koneet ja digitalisaatio voivat korvata ihmisiä, mutta syvällistä ymmärrystä, kulttuurien ja historian tuntemusta sekä kirjoitustaitoa on vaikea korvata. Meidän vaan tulee pystyä näyttämään, että meitä tarvitaan yhteiskunnassa, Mustajoki pohtii.

■ 語句・文法

ehdottomasti「絶対的に、無条件に」[副]< ehdoton < ehto / sitä mieltä, että ~「～だという考えで」 / osaamistamme「我々の専門的知識・技能を」[分] + 複 1 所接 < osaaminen 動名 < osata / entistä enemmän「以前よりも多く、これまで以上に」(entistä [分] < entinen, enemmän 比 < paljon) / digitalisaatio「デジタル化」 / korvata「取って代わる」 / syvällistä「深い、深遠な」[分] < syvällinen / tuntemusta「知識に / を、造詣に / を」[分] < tuntemus < tuntea / kirjoitus-taitoa「書く能力に / を」[分] < -taito / vaan = vain / meidän tulee pystyä「我々にはできなければならない」 / pystyä näyttämään「見せることができる」(pystyä + [入] ~ MA 不 [入]、näyttämään MA 不 [入] < näyttää) / Arto Mustajoki は Helsinki 大学の教授を務めたロシア語の研究者のようです。

● フィンランド語理解のための訳例

—私は～である|絶対的に|<次のような> [考えて、|我々の専門的知識・技能を|必要とされる|将来において|今までより|多く]。機械やデジタル化は|かもしれない|取って代わる|人間に、|しかし|深い|理解、|文化の|そして|歴史の|知識|さらに|物を書く力は|難しい|取って代わることは。我々は|ただ|しなければならない|できる|見せることが、|<次の> [ことを|我々を|必要とされる|社会において]、|と Mustajoki は|深く考えている。

◎ 意訳

我々<人文科学に携わる人間>の専門的知識・技能は、将来においては今まで以上に必要とされると私は固く信じている。機械やデジタル化が人間に取って代わる可能性もあるが、<物事に対する>深遠な理解、文化や歴史に関する知識、そして物を書く能力に取って代わることは難しいだろう。我々<人文科学に携わる人間>はただ、我々が社会において必要なものであることを示すことができない、と Mustajoki は思索している。

★ 補足

自動翻訳が進歩しており、私も昔大学院生に教えてもらった DeepL というアプリケーションを使うことがあります。この自動翻訳技術がさらに発展すれば、言語を学習する必要はなくなるかもしれません。これはとても喜ばしいことです。なぜなら、経済的利益を追求する手段としての言語学習などという「くだらない」作業が必要なくなるのですから。そうなれば言語学習は本来の姿へ戻ることができます。つまり、「人間とは何か」を知るための言語学習、そして純粋な知的好奇心にもとづく言語学習だけが生き残るからです。

【5】人工知能研究者である Bach はこう言っている

Tekoälyn aikakaudella humanistiset tieteet ovat avain lajimme selviytymiseen, sanoo tekoälytutkija Joscha Bach

■ 語句・文法

teko-äly「人工知能」/ aika-kaudella「時代に」[接] < -kausi / lajimme「我々の種の」[属]+ 複 1 所接 < laji / selviytymiseen「生き残ることへ」[入] < selviytyminen 動名 < selviytyä < selvitä < selvä / Joscha Bach は 1973 年生まれのドイツの認知科学者・人工知能研究者のようです。

● フィンランド語理解のための訳例

人工知能の|時代に|人文系の|科学は|鍵である|我々の種の|生き残ることへ、|いう|人工知能研究者|Joscha Bach は。

◎ 意訳

人工知能の時代にあって人文科学は我々〈人間という〉種が存続できるかどうかの鍵となる、と人工知能研究者である Joscha Bach はいう。

【6】人工知能の倫理的側面に関する議論には改善の余地しかない

Bachin mukaan osa poliitikoista on hyvin perillä kehityksestä, mutta yleisellä tasolla tekoälyn etiikasta käytävä keskustelu jättää toivomisen **vara**an **vara**a. Tutkijoiden ja yritysjohtajien välinen keskustelu on jäänyt eipäs-juupas -tasolle.

■ 語句・文法

poliitikoista「政治家たちのうち」[複出] < poliitikko ⇒ politiikka / perillä「精通して」(+ [出]) [複接] < perä / kehityksestä「発展について」[出] < kehitys < kehittää / yleisellä tasolla「一般的なレベルにおいて」[接] < yleinen taso / etiikasta「倫理について、道徳について」[出] < etiikka / käytävä「行われるような」受現分 < käydä / jättää toivomisen varaa「改善の余地を残す」(記事では varaan となっていますが、vara の誤りだと思います。toivomisen [属] < toivominen 動名 < toivoa) / yritys-johtajien「企業経営者たちの、ビジネスリーダーたちの」[複属] < -johtaja < johtaa / on jäänyt「残っている、とどまっている」単 3 完 < jäädä / eipäs-juupas -tasolle「根拠も示されず、ただ「そうではない」「そうだ」という主張が繰り返されるようなレベルへ」(eipäs は否定動詞の ei に強調の意味を付加する-päs がついた形で「そうではない」といった意味。一方の juupas は肯定を示す juu にやはり強調の意味を付加する-pas がついた形で「そうだ」といった意味。ただ根拠もなく「そうだ」「そうではない」という主張だけが繰り返されるような議論のことをさすのだと思います。)

● フィンランド語理解のための訳例

Bach の|よれば|一部は|政治家たちのうち|とても|精通している|〈人工知能の〉発展について、|しかし|一般の|レベルにおいて|人工知能の|倫理について|行われるような|議論は|残す|望むこ

との|余地を。研究者たちの|そして|企業経営者たちの|間の|議論は|残っている|根拠の示されな
い「そうだ」「そうではない」というレベルへ。

◎意識

Bach によれば政治家たちの一部は人工知能の発展について精通してはいるが、人工知能の倫理に関して一般的なレベルにおいて行われる議論には改善の余地がある。というのも、研究者たちと企業経営者たちとの間で行われる議論は、明確な根拠も示さずに「そうだ」「そうではない」といった主張だけが繰り返されるものとなっているからである。

★補足

倫理(学)という言葉が出てきましたので、念のため「倫理学」とは何なのか一言で確認しておきます。

【7】倫理学とは何をする学問か

Etiikassa tutkitaan hyvää, pahaa, oikeaa, väärää, moraalisen toiminnan perusteita.

■語句・文法

tutkitaan「研究される」受現 < tutkia / moraalisen toiminnan「道徳的な行為の」[属] < moraalinen toiminta / perusteita「根拠を、基準を」[複分] < peruste < perustaa < perus

●フィンランド語理解のための訳例

倫理学において|研究される|善いことを、|悪いことを|正しいことを、|まちがったことを、|道徳的な|行為の|基準を。

◎意識

倫理学においては善、悪、正、不正、〈つまり〉道徳的行為の基準を研究する。

【8】問題の原因は人文科学の教育が不足していること

– Ehkä se on oire humanististen tieteiden opetuksen puutteesta ja niiden tilasta, koska minusta yhteiskunnissa ei oikein osata keskustella etiikasta, Bach toteaa.

■語句・文法

se「それ」(人工知能の倫理についての議論が、明確な根拠も示されないものになってしまっているということ) / oire「兆候、症状、表れ」 / puutteesta「不足について」[出] < puute < puuttua / tilasta「状況について」[出] < tila / minusta「私の考えでは、私にしてみれば」[出] < minä / ei osata「できない」受現否 < osata / oikein「きちんと、しっかりと」 < oikea / toteaa「述べる」単 3 現 < todeta < tosi

●フィンランド語理解のための訳例

—おそらく|それは|兆候である|人文系の|科学の|教育の|不足について|そして|それらの|状況について、|なぜなら|私の考えでは|社会において|できない|しっかりと|議論する|倫理について、| Bach は述べる。

◎意訳

〈研究者たちと企業経営者たちとの間で行われる議論が、明確な根拠も示さずに「ああだ」「こうだ」と主張するだけのものとなってしまっているという〉そのことは、人文科学の教育が不足していることや、人文科学が置かれている状況をおそらく示すものである。なぜなら、私の考えでは〈現在の〉社会においては倫理というものについてきちんと議論することができないからである、と Bach は述べる。

【9】倫理学とは深く取り組むことを要求する挑戦的な課題

Bach myöntää, että etiikka on haastava aihe, joka vaatii syvälistä paneutumista. Eettisten linjausten vetämistä ei pitäisi jättää insinöörien tehtäväksi.

■語句・文法

myöntää「認める」/haastava「挑戦的な、困難な」能現分 <haastaa/paneutumista「(深く) 取り組むことを、没頭することを」[分]< paneutuminen 動名 < paneutua < panna/eettisten linjauksen「倫理的な路線の、倫理的な方針の」[複属]< eettinen linjaus/vetämistä「(線を) 引くことを」[分]< vetäminen 動名 < vetää/ei pitäisi「してはならないだろう」[条]単₃ 現否/jättää insinöörien tehtäväksi「エンジニアたちに任せる」(直訳すれば「エンジニアたちのやるべきこととして残す」ですが、「jättää tehtäväksi」で「任せる」と覚えてしまってもよいと思います。)

●フィンランド語理解のための訳例

Bach は|認める、|〈次の〉[ことを|倫理は|である|挑戦的な|話題、|それは|要求する|深い|取り組むことを]。倫理的な|路線を|引くことを|してはならないだろう|残す|エンジニアたちの|なされることとして。

◎意訳

倫理というのは深く取り組むことを要求するような挑戦的な課題であるということを Bach は認める。そして、倫理上の方針を決定することをエンジニアたちに任せるべきではない。

【10】倫理学や哲学は人工知能の発展に追いついていない

Tällä hetkellä vaihtoehdot ovat kuitenkin Bachin mukaan vähissä, sillä etiikka ja filosofia eivät ole pysyneet tekoälyn perässä.

■ 語句・文法

vaihto-ehdot「選択肢は」[複主]< -ehto / vähissä「少しだけ(残って)」[複内]< vähä ⇒ vähiin / pysyä perässä「追いついている、後に続いている」(perässä < perä)

● フィンランド語理解のための訳例

この|瞬間に|選択肢は|ある|しかしながら|Bach の|よれば|少しだけ(残って)、|というのも|倫理学は|そして|哲学は|とどまらない|人工知能の|後に続いて。

◎ 意訳

しかしながら Bach によれば、現時点において残された選択肢はわずかしかない。なぜなら、倫理学や哲学が人工知能<の発展>に追いついていけていないからだ。

【11】人文科学は単なる「お飾り」などではない

– Apurahoja myöntävien tahojen, niitä ohjaavien hallitusten, järjestökentän ja yhteiskunnan sidosryhmien on ymmärrettävä, että humanistiset tieteet eivät ole pelkkä koriste tai suoja-työtä, vaan niiden taso voi vaikuttaa lajimme selviytymiseen, Bach sanoo.

■ 語句・文法

apu-rajoja「補助金を、助成金を」[複分]< -raha / myöntävien「認めるような、承認するような」[複属]< myöntävä 能現分 < myöntää / tahojen「方面の、関係者たちの」[複属]< taho / ohjaavien「指導するような、管理するような」[複属]< ohjaava 能現分 < ohjata / hallitusten「理事会の、管理団体の、当局の」[複属]< hallitus < hallita / järjestö-kentän「組織分野の、団体領域の」[属]< -kenttä / sidos-ryhmien「利害関係団体の」[複属]< -ryhmä / on ymmärrettävä「理解しなければならない」(ymmärrettävä 受現分 < ymmärtää. ”on + 受動現在分詞” で「~しなければならない」という意味を表しますが、意味のうえで主語に相当する語は属格で表現します。ここでは、tahojen, hallitusten, sidos-ryhmien という属格が意味のうえでの主語に相当します。このような属格の使い方を「属格与格」と呼ぶことがあります。、「~にとって」といった働きをしていると考えられます。) / koriste「飾り」< koristaa < korea ⇒ koru / suoja-työ「保護雇用による仕事」(suoja-työとは直訳すれば「保護仕事」とでもなると思いますが、障害などの理由により通常の形での雇用が困難な人々を特別な形で雇用することにより行われる仕事のことをさすようです。そのような雇用を英語では ”supported employment” と呼ぶようで、日本語では「援助つき雇用」などというようです。ここでは人文科学について話がなされていますが、「他者との競争から保護されて行われる研究作業」といった意味で使われているのだと思います。)

●フィンランド語理解のための訳例

助成金を|認めるような|関係者たちにとって、|それらを|管理する|当局にとって、|組織分野の|そして|社会の|利害関係団体にとって|理解しなければならない、|〈次の〉[ことを|人文系の|科学は|ではない|単なる|飾り|あるいは|〈競争から〉保護された仕事、|〈そうではなく〉|それらの|レベルは|ありうる|影響する|我々の種の|生き残ることへ、|Bach はいう。

◎意訳

〈研究に対して〉助成金を承認する関係者たち、それらを管理する当局、さまざまな組織や社会における利害関係団体は、人文科学というものは単なる飾りでもなく、また〈他者との競争から手厚く〉保護された〈浮世離れをした〉作業でもないということを理解すべきであり、それらのレベルが我々人間という種の生き残りに影響を及ぼしうるものであるということを理解しなければならないと、Bach は述べている。

★補足

人工知能の研究者からこのような指摘がなされていることには十分な注意を払っておくべきだと思います。さらに次の【12】から【14】では、有名な「グーグル」という企業で働いている Larissa Suzuki さんという方の考えをみていきます。

【12】グーグルの技術責任者である Suzuki はこう言っている

Humanististen tieteidén tarpeellisuutta painottaa myös Googlen pilvipalveluyksikössä teknisenä johtajana työskentelevä **Larissa Suzuki**.

■語句・文法

tarpeellisuutta「必要性を」[分] < tarpeellisuus < tarpeellinen < tarve / painottaa「強調する」< paino < painaa / pilvi-palvelu-yksikössä「クラウドサービス部門で」[内] < -yksikkö < yksi / teknisenä johtajana「技術責任者として、テクニカルディレクターとして」[様] < tekninen johtaja / työskentelevä「働くような」能現分 < työskennellä < työ

●フィンランド語理解のための訳例

人文系の|科学の|必要性を|強調する|また|グーグルの|クラウドサービス部門で|技術的な|責任者として|働くような|Larissa Suzuki は。

◎意訳

人文科学の必要性は、グーグルのクラウドサービス部門の技術責任者を務める Larissa Suzuki もまた強調している。

【13】人工知能の開発には多様な人々、たとえば哲学者が必要とされる

– Tekoälyjärjestelmien kehittäminen vaatii eri taitoja omaavia ihmisiä. Tarvitaan esimerkiksi filosofeja, jotka osaavat tarkastella tekoälyn vastuullisuuteen liittyviä kysymyksiä humanististen tieteiden näkökulmasta, Suzuki sanoo.

■ 語句・文法

teko-älyjärjestelmien「人工知能システムの」[複属] < -järjestelmä < järjestää < järki / kehittämisen「開発すること」動名 < kehittää / omaavia「所有するような」[複分] < omaava 能現分 < omata < oma / filosofeja「哲学者たちを」[複分] < filosofi / tarkastella「精査する、調べる」 < tarkastaa < tarkka / vastuullisuuteen「責任へ、義務へ」[入] < vastuullisuus < vastuullinen < vastuu < vastata / liittyviä「結びつくような、関係するような」[複分] < liittyvä 能現分 < liittyä

● フィンランド語理解のための訳例

—人工知能システムの|開発することは|要求する|さまざまな|技能を|所有するような|人々を。必要とされる|たとえば|哲学者たちを、|それらは|できる|精査する|人工知能の|責任へ|結びつくような|問題を|人文系の|科学の|視点から、|Suzuki はいう。

◎ 意訳

—人工知能システムの開発には、さまざまな技能をもつ人々が必要とされる。たとえば、人文科学の視点から人工知能の責任というのものに関係する問題を考察する哲学者が必要とされる、と Suzuki はいう。

【14】人工知能はあくまでも人間のために存在する

– Loppujen lopuksi tekoälyteknologia tekee töitä ihmiselle. Meidän ihmisten tehtävä on määritellä kynnyсарvot sille, mikä on tarpeeksi hyvää meille, Suzuki toteaa.

■ 語句・文法

loppujen lopuksi「結局のところ、とどのつまり」(loppujen [複属] < loppu, lopuksi [変] < loppu) / tehtävä「役割は、なされるべきことは」受現分 < tehdä / määritellä「定義する、明確にする」 / kynnyсарvot「閾値を、限界値を、境界点を」[複主対] < -arvo (「閾値」は「いきち」あるいは「しきいち」と読むようですが、何らかの限界値、あるいは境界となる値を意味します。フィンランド語の kynnyсар はやはり「敷居(しきい)」という意味です。) / sille, mikä ~「何が~であるのかに対して」(sille [向] < se)

● フィンランド語理解のための訳例

—結局のところ|人工知能技術は|する|仕事を|人間へ。我々の|人間たちの|役割は|である|定義すること|閾値を|〈次のこと〉[に対して|何が|十分に|よい|我々にとって]、|Suzuki は述べる。

◎意訳

—結局のところ人工技能の技術というものは人間のために働くものである。そして、何が我々人間にとって十分によいことなのかということの閾値を特定することが我々人間の役割である、と Suzuki は述べている。

★補足

以上でみたように、デジタル化や人工知能の発展にともない人文科学の重要性はますます大きくなると考えるべきだと思います。

さて、「持続可能性」を扱った資料Ⅲ-6の【48】から【51】で歴史学についての資料を読みました。ぜひ参考にしてください。そこで読んだものと同じ資料から引用するのが次の【15】から【23】、そして【29】です。これらを読みながら人文科学の一つである歴史学にはどのような役割が期待できるのか確認したいと思います。

【15】物質的消費を追い求める経済成長は行き詰まろうとしている

Tiedeyhteisössä vallitsevana käsityksenä on, ettei nykyinen elämäntapamme ole kestävä. Talouskasvu, ainakin jos sillä tavoitellaan alati lisääntyvää aineellista kulutusta, näyttää tulevan nopeasti tiensä päähän ympäristön kestäättömän kuormittumisen myötä.

■語句・文法

tiede-yhteisössä「科学界において」[内]<-yhteisö/vallitsevana käsityksenä「支配的となっている理解として」[様]<vallitseva käsitys (vallitseva 能現分 <vallita) /ettei = että ei「～ではないということ」/elämän-tapamme「我々の生活様式は」[主]+ 複 1 所接 <-tapa/kestävä「持続可能な」能現分 <kestää/sillä「それにより」[接]<se/tavoitellaan「めざされる、手に入れようとされる」受現 <tavoitella <tavoittaa <tavata/alati「つねに」/lisääntyvää aineellista kulutusta「増大するような物質的な消費を」[分]<lisääntyvä aineellinen kulutus (lisääntyvä 能現分 <lisääntyä <lisätä <lisä) /näyttää tulevan「来るように見える、来そうだ」(tulevan[属]<tuleva 能現分 <tulla) [分構] /tiensä päähän「行き止まりへ(自らの道の端へ)」(tiensä[属]+ 単 3 所接 <tie, päähän [入]<pää) /kestämättömän「持続不可能な」[属]<kestämätön 否分 <kestää ⇔ kestävä /kuormittumisen「負担をかけられることの、圧力かけられることの」[属]<kuormittuminen 動名 <kuormittua <kuormittaa <kuorma/myötä「～につれて、～にともなって」

●フィンランド語理解のための訳例

科学界において| 支配的になっているような| 理解として| ある| <次では> [ないということ| 現在の| 我々の生活様式は| 持続可能では]。経済成長は、| 少なくとも| もし| それにより| めざされる| つねに| 増大するような| 物質的な| 消費を、| 見える| 来るように| 速く| 自らの道の| 端へ| 環境の| 持続不可能な| 負担をかけられることの| つれて。

◎意訳

科学の世界においては、現在の我々の生活様式は持続可能ではないということが常識的な理解となっている。経済成長は、少なくとも物質的消費をつねに増大させることをめざすものであるならば、環境に対して持続不可能な負荷を与えることにより急速に行き詰ろうとしているように思われる。

【16】消費社会とはきわめて新しい現象である

Historiallisena ilmiönä kulutusyhteiskunta, jota monet meistä pitävät itsestään selvänä ja ainoana mahdollisena yhteiskunnan muotona on varsin nuori. Vasta viime vuosisata toi aineellisen elintason kasvun ja siihen liittyvän kuluttamisen useimpien länsimaisten ihmisten ulottuville.

■語句・文法

ilmiönä「現象として」[様]< ilmiö ⇒ ilmi, ilma, ilmetä/pitää「みなす」(+ [分]+[様]。ここでは jota が関係代名詞 joka の分格、そして次に来る selvänä と ainoana mahdollisena ~ muotona が様格。) / itsestään selvänä = itsestään-selvänä「自明のことだと」(itsestään [出]+ 単 3 所接、selvänä [様]< selvä) / ainoana mahdollisena ~ muotona「唯一の可能な~形態として」[様]< ainoa mahdollinen ~ muoto / elin-tason「生活水準の」[属]< -taso / siihen liittyvän「それへ結びつくような」(siihen [入]< se, liittyvän [属]< liittyvä 能現分 < liittyä) / kuluttamisen「消費することを」[属対]< kuluttaminen 動名 < kuluttaa < kulua / useimpien länsi-maisten ihmisten「ほとんどの西洋諸国の人々の」[複属]< usein länsi-mainen ihminen (usein 最 < usea) / ulottuville「届くところへ、手に入れられるように」[複向]< ulottuva 能現分 < ulottua ⇒ ulottuvilla, ulottuvilta

●フィンランド語理解のための訳例

歴史的な|現象として|消費社会は、|[それを|多くの人々は|我々のうち|みなす|自明のこととして|そして|唯一の|可能な|社会の|形態として]|である|きわめて|若い。やっとな|前世紀が|もたらした|物質的な|生活水準の|成長を|そして|それへ|結びつくような|消費することを|ほとんどの|西側諸国の|人々の|手の届くところへ。

◎意訳

消費社会というものを我々の多くは自明のこととして、また唯一可能な社会形態として考えているが、それは歴史的現象としてはきわめて新しいものである。物質的な生活水準の向上と、それに結びつく消費というものを西側諸国のほとんどの人々が享受できるようになったのは、やっとな前世紀になってからのことである。

【17】産業革命後の短期間に自然の耐久力は追い詰められてきた

Ilmiön taustavoimana toiminut teollinen vallankumous on sekin alkanut vasta muutama vuosisata sitten. Koko ihmiskunnan historiaa vasten tarkasteltuna kyseessä on häkellyttävän lyhyt aikakausi, joka on tuonut mukaan valtavan määrän edistystä, mutta samalla ajanut hyvin lyhyessä ajassa luonnon kestokyvyn ääri-rajaille ja ilmeisesti osittain jo sen yli. Voisiko historiatietoisuuden näkökulma auttaa meitä ympäristökysymysten tiedostamisessa ja niihin reagoimisessa?

■ 語句・文法

tausta-voimana「(背後にある)原動力として、推進力として、誘因として」[様]<-voima/toiminut「機能したような」能過分 < toimia/teollinen vallan-kumous「産業革命」(vallan[属]<valta)/muutama vuosi-sata sitten「数世紀前に」/ihmis-kunnan「人類の」[属]<-kunta/vasten「~に対して、~に照らして」/tarkasteltuna「精査されると、調べられると」[様]<tarkasteltu 受過分 <tarkastella/kyseessä on ~「問題となるのは~である」/häkellyttävän「困惑させるほど」[属]=[副]<häkellyttävä 能現分 <häkellyttää <häkeltyä/tuoda mukaan「もたらす」/valtavan määrän edistystä「巨大な発展を」(valtavan määrän[属対]<valtava määrä「膨大な量」、edistystä[分]<edistys。määrä「量」といった語は分格をしたがえることがあります。)/ (on) ajanut「追いやった」(この ajanut は 1 行前の on と結びついて現在完了形を作っています。)/lyhyessä ajassa「短い期間に」[内]<lyhyt aika/kesto-kyvyn「耐久力を」[属対]<-kyky (kesto <kestää)/ääri-rajaille「限界まで、極限まで」[複向]<-raja/osittain「部分的には」<osa/yli「超えて」/voisi「できるだろう」[条]単 3 現 <voida/historia-tietoisuuden「歴史認識の」[属]<-tietoisuus <tietoinen <tieto <tietää(「歴史認識」については、次の【18】で確認します。)/tiedostamisessa「認識することにおいて」[内]<tiedostaminen 動名 <tiedostaa <tieto <tietää/niihin「それらへ」[入]<ne/reagoimisessa「反応することにおいて」[内]<reagoiminen 動名 <reagoida

● フィンランド語理解のための訳例

現象の|原動力として|機能したような|産業の|革命は|始まった|それも|やっと|いくつかの|世紀|前に。全体の|人類の|歴史に|対して|精査されると|問題となるのは|である|困惑させるほど|短い|期間、|それは|もってきた|たずさえて|巨大な|量を|発展の、|しかし|同時に|追いやった|非常に|短い|時間に|自然の|耐久力を|極限へ|そして|明らかに|部分的には|すでに|その|超えて。できるだろうか|歴史認識の|視点は|助ける|我々を|環境問題の|認識することにおいて|そして|それらへ|反応することにおいて。

◎ 意訳

〈消費社会という〉現象が発展する原動力となった産業革命自体も数世紀前に始まったに過ぎない。人類の歴史全体に照らしてみれば問題となるのは困惑するほど短い期間におけるできごとであり、それは膨大な発展をもたらすと同時に、非常に短期間の間に自然の耐久力を限界まで追い詰め、場合によっては明らかにそれを超えてしまった。歴史認識という視点は我々が環境問題を認識し、

それらに対応するのに貢献できるのでしょうか。

★補足

historiatietoisuus という用語が出てきましたので「歴史認識」と訳しておきましたが、たとえば日本語で「日本と韓国における歴史認識の違い」などというときの「歴史認識」とは少し異なっています。次の【18】は資料Ⅲ-6における【49】の再掲です。historiatietoisuus がどのような意味なのか確認してください。

【18】現在を過去と結びつけることで、さらに未来へと結びつけるのが「歴史認識」

Menneisyys muovaa käsitystämme nykyisyydestä, mutta avaa toisaalta odotuksia tulevasta. Historia ei siis ole pelkkää tietoa jo tapahtuneesta, vaan vaikuttaa tapaamme ajatella ja toimia tässä hetkessä. Tätä eri aikatasoja yhdistävää ajattelua kutsutaan historiatietoisuudeksi. Historiatietoisuuden käsite pohjautuu ihmisen kykyyn hahmottaa omaa todellisuuttaan ajassa liikkumalla. Se toimii siis eräänlaisena siltana menneisyyden, nykyisyyden ja erilaisten tulevaisuudenodotusten välillä. Menneisyys ja sen selittäminen vaikuttavat siihen, kuinka ymmärrämme nykyisyyttä. Tältä pohjalta rakennamme myös erilaisia tulevaisuudenodotuksia (van den Berg 2007, Ahonen 1998, 21—22).

■ 語句・文法

muovata「形作る」/nykyisyydestä「現在について」[出]< nykyisyys < nykyinen / tulevasta「来るべきことについて、未来について」[出]< tuleva 能現分 < tulla / jo tapahtuneesta「すでに起こったことについて」(tapahtuneesta [出]< tapahtunut 能過分 < tapahtua) / tapaamme「我々の方法へ」[入]+ 複₁ 所接 < tapa / tätä eri aika-tasoja yhdistävää ajattelua「この、さまざまな時間レベルを結びつけるような考え方を」(yhdistävää [分]< yhdistävä 能現分 < yhdistää) / kutustaan historia-tietoisuudeksi「歴史認識と呼ばれる」/ pohjautua「もとづく」/ todellisuuttaan「自らの現実を」[分]+ 単₃ 所接 < todellisuus / ajassa liikkumalla「時間の中を動くことにより」(liikkumalla MA 不 [接]< liikkua) / erään-laisena siltana「ある種の橋として」[様]< erään-lainen silta / tulevaisuuden-odotusten「未来についての予想の、未来についての期待の」(tulevaisuuden [属]< tulevaisuus < tuleva 能現分 < tulla, odotusten [複属]< odotus < odottaa) / selittäminen「説明すること」動名 < selittää / siihen, että ... 「…だということへ」(siihen [入]< se) / tältä pohjalta「この土台から、これにもとづいて」[奪]< tämä pohja

● フィンランド語理解のための訳例

過去は形作る | [我々の理解を | 現在について]、| しかし開く | 一方で | [予想を | 来るべきものについて]。歴史はつまり [～ではない | 単なる知識 | すでに起こったことについての]、| <そうではなく> 影響を与える | [我々の方法へ | 考えるための | そして行動するための | この瞬間において]。この | さまざまな時間レベルを | 結びつけるような考え方 | 呼ばれる | 歴史認識と。歴史認識の概念はもとづく | [人間の能力へ | 理解するための | 自らの現実を | 時間の中を動くことにより]。それは機能する | つま

り|ある種の橋として|過去の、|現在の|そしてさまざまな|未来についての予想の間で。過去と|それを説明することは|影響を与える|〈次の〉[ことへ、|いかに我々は理解するのか|現在を]。この土台から|我々は構築する|また|さまざまな未来の予想を (van den Berg 2007 年, Ahonen 1998 年, 21-22)。

◎意訳

「過去」というものは我々が「現在」というものをどのように理解するのかを決定するが、一方で、「未来」がどのようなものであるのか予想することを可能にしてくれるのもまた過去である。つまり、歴史というものはすでに起こったことに関する単なる知識ではなく、この瞬間に我々が考え行動する方法に影響を与えているものこそ歴史なのである。このような、異なる時間レベルを結びつけるような思考を歴史認識と呼ぶのである。その歴史認識という概念は、時間の中を移動することで自らの現実を理解しようとする人間の能力にもとづいているのである。つまり、歴史認識とは過去と現在、そして予想されるさまざまな未来との間を橋渡しするものとして機能するのである。過去と、その過去に関する説明は、現在というものを我々がどのように理解するのかということに影響を与えている。そして、このことにもとづいて、我々はまた未来についてさまざまな予想図を構築するのである。

★補足

【1】の中で、水質汚濁の原因は「水」ではなく「人」であることを確認しました。それ以外の多くの問題も、その根本的な原因を生み出しているのは人間でしょう。あるいは消費活動がすべての中心になってしまっていることも多くの問題の要因となっています。それでは、そのような状況において「歴史学」は何らかの貢献ができるのでしょうか。

【19】政治家たちの意思と能力に対する不信感がこの時代を特徴づけている

Ympäristön tilaan voi epäilemättä vaikuttaa ongelmien tiedostamisella ja sitä seuraavilla poliittisilla päätöksillä. Aikakautemme henkeä leimaa kuitenkin epäusko poliitikkojen haluun ja kykyyn vaikuttaa kehitykseen. Poliitiikan sijaan varsinkin nuoriso näyttää uskovan talouden voimien ohjaavan kehitystä.

■語句・文法

epäilemättä「疑うことなく」MA 不[欠] < epäillä / tiedostamisella「認識することにより」[接] < tiedostaminen 動名 < tiedostaa / sitä seuraavilla「それに続くような」(sitä[分] < se, seuraavilla [複接] < seuraava 能現分 < seurata) / poliittisilla päätöksillä「政治的決定により」[複接] < poliittinen päätös / aika-kautemme「我々の時代の」[属]+ 複 1 所接 < -kausi / leimata「特徴づける」< leima / epä-usko「不信(感)」 / poliitikkojen haluun ja kykyyn「政治家たちの意思や能力に対して」(haluun ja kykyyn[入] < halu ja kyky) / sijaan「~の代わりに」 / varisinkin「とりわけ」 / nuoriso「若者たち、若年層」 / näyttää uskovan「信じているように見える、信じているようだ」[分構] (uskovan[属] < uskova 能現分 < uskoa) / uskovan talouden voimien ohjaavan kehitystä「経済の力が発展を導くと信じる」[分構] (voimien「力の」[複属] < voima / ohjaavan「導くと」

[属]< ohjaava 能現分 < ohjata)

●フィンランド語理解のための訳例

環境の|状況へ|できる|疑うことなく|影響する|問題の|認識することにより|そして|それに|続く
ような|政治的な|決定により。我々の時代の|精神を|特徴づける|しかしながら|不信が|政治家た
ちの|希望への|そして|能力への|影響を与える|発展へ。政治の|代わりに|とくに|若者たちは|見
える|信じているように|経済の|力の|導くことを|発展を。

◎意識

環境の置かれた状況に対しては、問題を認識すること、そしてそれに続く政治的決定によりまちが
いなく影響を与えることができるはずだ。しかし、我々の時代の精神を特徴づけているのは、発展の
道筋に影響を与える政治家たちの意思と能力に対する不信感である。政治に代わって、とくに若者
たちは経済の力が発展を導くのだと信じているようだ。

【20】市場が人間の主人となっている状況は民主主義の観点から大きな問題だ

Markkinatalouteen **perustuvissa perustuvassa** yhteiskunnassa talouden
toiminnan vapaus on eräs keskeinen lähtökohta. Markkinoiden siirtyminen rengin
tehtävistä isännän rooliin on kuitenkin demokratian kannalta ongelmallista.
Talouden toimijoiden kasvanut valta suhteessa poliitikkoihin ei kuitenkaan ole
historiaton ilmiö.

■語句・文法

markkina-taloutteen「市場経済へ」[入]< -talous/資料では perustuvissa yhteis-kunnassa となっ
ていますが、おそらく perustuvissa は単数の perustuvassa であるべきだと思います。/perustuvassa
yhteis-kunnassa「もとづくような社会において」[内]< perustuva yhteis-kunta (perustuva 能現分
< perustua) /lähtö-kohta「出発点」/siirtyminen「移ること」動名 < siirtyä < siirtää /rengin
tehtävistä「使用人の役割から」(rengin [属]< renki, tehtävistä [複出]< tehtävä 受現分 < tehdä)
/isännän rooliin「主人の役割へ」(isännän [属]< isäntä < isä, rooliin [入]< rooli) /
ongelmallista「問題のあるような」[分]< ongelmallinen < ongelma /toimijoiden「活動する人たち
の、従事する人たちの」[複属]< toimija < toimia /kasvanut「成長したような、大きくなったような」
能過分 < kasvaa /suhteessa「~に対する、~との関係における」[内]< suhde (+ [入]) /
poliitikkoihin「政治家たちへ」[複入]< poliitikko /historiaton「歴史的ではない、歴史のないよう
な、非歴史的な」< historia

●フィンランド語理解のための訳例

市場経済へ|もとづくような|社会において|経済の|活動の|自由は|である|ある|中心的な|出
発点。[市場の|移ること|使用人の|役割から|主人の|役割へ]|である|しかしながら|民主主義の
|観点から|問題のあるような。経済の|活動者たちの|大きくなったような|力は|〈次〉[との関係で
の|政治家へ]|ではない|しかしながら|歴史のない|現象。

◎意訳

市場経済にもとづく社会においては、経済活動の自由は一つの中心的な出発点である。しかし、市場が〈人間に〉仕える立場から主人の役割へと変化したことは、民主主義という観点からすれば問題をはらむものである。しかし、政治家との関係において経済人たちの権力が増大してきたことは非歴史的な現象ではない〈つまり、歴史的な現象であり、我々が作り出してきたものなのである〉。

★補足

我々の社会そのものが「非歴史的な現象ではない」、つまり我々自身によって作り出されてきた歴史的な現象であるということはしっかり頭に入れておきたいものです。つまり、我々が作り出してきたのであれば、それを修正することも可能だということになるはずだからです。

【21】新自由主義の台頭が大きな問題を生み出してきた

Uusliberalismin nousu 1970-luvulta lähtien on muovannut voimakkaasti koko globalisaatiokehitystä. Rahoitusmarkkinoiden säätelemättömyys tai eri puolilla maailmaa kukoistavat veroparatiisit ovat mahdollistuneet tiettyjen päätösten seurauksena.

■語句・文法

uus-liberalismin「新自由主義の、ネオリベラリズムの」[属]<-liberalismi/nousu「上昇、台頭」<nousta/lähtien「～以来」e 不[具]<lähteä/muovata「形成する、加工する」/voimakkaasti「力強く」[副]<voimakas <voima/globalisaatio-kehitystä「グローバリゼーションの発展を」[分]<-kehitys/rahoitus-markkinoiden「金融市場の」[複属]<-markkina (rahoitus <rahoittaa <raha) /säätelemättömyys「規制のされないこと」<säätelemätön 否分 <säädellä <säätää/eri puolilla maailmaa「世界の各地において」/kukoistavat vero-paratiisit「繁栄するような租税回避地、勃興するようなタックスヘイブン」(kukoistavat [複主]<kukoistava 能現分 <kukoistaa <kukka) /ovat mahdollistuneet「可能になってきた」複 3 完 <mahdollistua <mahdollistaa <mahdollinen/tiettyjen「ある特定の」[複属]<tietty <tietää (tietty は語源的には tietää という動詞の古い受動過去分詞の形とされています。) /seurauksena「結果として」[様]<seuraus <seurata

●フィンランド語理解のための訳例

新自由主義の|台頭は|1970 年代から|以降に|形成してきた|力強く|全体の|グローバリゼーションの発展を。金融市場の|規制のなされないこと|あるいは|さまざまな|面における|世界の|繁栄したような租税回避地|可能になってきた|ある特定の|決定の|結果として。

◎意訳

1970 年代以降の新自由主義の台頭は、グローバリゼーションという変化全体を強力に推し進めてきた。規制のなされない金融市場や、あるいは世界各地に広がる租税回避地は、〈人間によってなされた〉ある特定の決定の結果として可能になってきたのである。

【22】現状が自然なものだと思込ませるのが権力行使の一形態だ

Vallitsevan asioiden tilan kuvaaminen luonnollisena tai ainoana mahdollisena on eräs vallankäytön muoto, jonka luonteen ymmärtäminen vaatii muun muassa nykytilan historiallisen taustan ymmärtämistä.

■ 語句・文法

valitsevan asioiden tilan「物事の支配的となっている状況の、事柄の現状の」(vallitsevan [属] < vallitseva 能現分 < vallita, asioiden [複属] < asia。なお, vallitsevan は tilan「状況の」を修飾していますので, tilan と同じく単数属格になっています。) / kuvaaminen「描くことは」動名 < kuvata / luonnollisena「自然なものだ」と [様] < luonnollinen < luonto / ainoana mahdollisena「唯一可能なものだ」と [様] < ainoa mahdollinen / vallan-käytön「権力行使の」[属] < -käyttö < käyttää / luonteen「性質の、性格の」[属] < luonne < luonto < luoda / ymmärtäminen「理解すること」動名 < ymmärtää / muun muassa「なかでも、とりわけ」 / nyky-tilan「現状の」[属] < -tila

● フィンランド語理解のための訳例

[支配的となっているような | 物事の | 状況の | 描くことは | 自然なものだ | そして | 唯一 | 可能なものだ |] | である | [ある | 権力行使の | 形]、 | その | 性質の | 理解することは | 要求する | とりわけ | 現状の | 歴史的な | 背景の | 理解することを。

◎ 意訳

現時点における物事の状況を自然なものとして、そしてただ一つ可能なものとして描き出すことは権力行使の一つの形態であり、その性格を理解するためには、とりわけ現状の歴史的背景を理解することが求められる。

★ 補足

「現在の姿が自然であり、また唯一可能なものだと信じ込ませること」が権力行使の形態であり、つまりは権力維持の手段であるということになります。現在の日本のように歴史学をはじめとする人文科学が意図的に軽視されているのは、「優秀な人々」が権力維持をもくろんでいるためではないのかとまで深読みしたくなるのは私だけでしょうか。

【23】歴史認識は我々を伝統という足枷から自由にしてくれる

Saksalainen filosofi Hans-Georg Gadamer korosti historiatietoisuuden emansipatorista luonnetta. Tiedostamalla erilaisten ilmiöiden ja ajatusten olevan tietyn historiallisen kehityksen tulosta, eivät lopullisia totuuksia, ihmiset kykenivät Gadamerin mukaan murtautumaan irti traditioiden kahleista. Gadamerin ajattelussa kyse on nimenomaan kriittisestä historiankäytöstä, joka tiedostaa ilmiöiden historiallisuuden ja erilaisten totuuksien suhteellisuuden. (Gadamer 1988, Seixas 2004, 8-9.)

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

Gadamer, Hans-Georg 1988. The Problem of Historical Consciousness. Teoksessa Paul Rabinow & William M. Sullivan (toim.) Interpretive Social Science: A Second Look. Berkeley: University of California Press, 82—140.

Seixas, Peter 2004. Introduction. Teoksessa Peter Seixas, (toim.) Theorizing Historical Consciousness. Toronto: University of Toronto Press, 3-20.

■ 語句・文法

Hans-Georg Gadamer (ハンス＝ゲオルク・ガダマー、1900-2002) はドイツの哲学者 / emansipatorista 「解放(者)の、解放するような」 [分] < emansipatorinen / tiedostamalla erilaisten ilmiöiden ja ajatusten olevan ~ 「さまざまな現象や考え方が~であると認識することにより」 (tiedostamalla MA 不 [接] < tiedostaa, olevan [属] < oleva 能現分 < olla) [分構] / lopullisia totuuksia 「最終的な真実、決定的な真理」 [複分] < lopullinen totuus / kykenivät 「できた」 複 3 過 < kyetä (+ [入] ~ MA 不 [入]) / murtautumaan 「抜け出す、押し入る」 MA 不 [入] < murtautua < murtaa / irti 「離れて」 / kahleista 「足枷(あしかせ)から、手枷(てかせ)から」 [複出] < kahle (kahle はふつう複数形で使います) / nimen-omaan 「まさに」 / kriittisestä historian-käytöstä 「批判的な歴史使用について、歴史を批判的に利用することについて」 [出] < kriittinen historian-käyttö / historiallisuuden 「歴史性を」 [属対] < historiallisuus < historiallinen < historia / suhteellisuuden 「相対性を」 [属対] < suhteellisuus < suhteellinen < suhde

● フィンランド語理解のための訳例

ドイツの哲学者 | ハンス＝ゲオルク・ガダマーは | 強調した | 歴史認識の | 解放するような | 性質を。
[認識することにより | さまざまな | 現象の | そして | 考えの | ~であることを | ある特定の | 歴史的な | 発展の | 結果、 | ~ではなく | 最終的な | 真実]、 | 人々は | できた | ガダマーの | よれば | 抜け出すことが | 離れて | 伝統の | 足枷から。ガダマーの | 考えにおいて | 問題は | である | まさに | 批判的な | 歴史使用 | について、 | それは | 認識する | 現象の | 歴史性を | そして | さまざまな | 真実の | 相対性を。(Gadamer 1988, Seixas 2004, 8-9.)

◎ 意訳

ドイツの哲学者であるハンス＝ゲオルク・ガダマーは、歴史認識というもののもつく人々を解放する性格を強調した。さまざまな現象や考え方が特定の歴史的発展の結果であり、最終的な真理ではないということを認識することで、ガダマーによれば人々は伝統という足枷から自由になることができたのである。ガダマーの思想において問題となるのはまさに歴史の批判的利用であり、それは現象の歴史性やさまざまな真理の相対性というものを認識するものである。(Gadamer 1988, Seixas 2004, 8-9.)

★ 補足

ここまで人文科学の軽視といった問題を見てきましたが、科学や学問に関するもう一つ大きな問題が「細分化」「タコツボ化」だという指摘があります。それがどのような事態に結びつくのかみていきます。

【24】知識の細分化とタコツボ化も大きき問題だ

Hedelmällisen vuorovaikutuksen lähtökohta on halu ymmärtää toista. Tämä pätee myös tieteidenväliseen debattiin.

– Ongelmana on tiedon pirstaloituneisuus ja lokeroituneisuus. Kokonaiskuvaa asioista ei synny helposti, mikä heijastuu siihen, että tieto ei kumuloidu, Mustajoki sanoo.

■ 語句・文法

hedelmällisen vuoro-vaikutuksen「実りある相互作用の」[属] < hedelmällinen vuoro-vaikutus (hedelmällinen < hedelmä) / toista「他者を」[分] < toinen / päteä「当てはまる」 / tieteidenväliseen debattiin「学際的な議論へ」[入] < tieteiden-välinen debatti / pirstaloituneisuus「細かくなっていること、細分化していること」 < pirstaloitunut 能過分 < pirstaloitua / lokeroituneisuus「個別化していること、孤立していること、タコツボ化」 < lokeroitunut 能過分 < lokeroitua < lokeroida < lokero / kokonais-kuvaa「全体像は」[分] < -kuva / mikä「そのことは」(前の節の内容全体を受け関係詞) / heijastua「反映する」 < heijastaa / siihen, että ~ 「～だということへ」(siihen[入] < se) / kumuloitua「蓄積する」 < kumuloida

● フィンランド語理解のための訳例

実りある | 相互作用の | 出発点は | である | 望み | 理解する | 他者を。これは | 当てはまる | また | 学際的な | 議論へ。

一問題として | ある | 知識の | 細分化していること | そして | 個別化していること。全体像は | 物事について | 生まれぬ | 容易に、 | そのことは | 反映する | <次の> [ことへ、 | 知識は | 蓄積されない、 | Mustajoki は | いう。

◎ 意訳

実りある相互関係の出発点となるのは、他者を理解したいと思う気持ちである。このことは学際的議論にもまた当てはまるものだ。

一問題となるのは知識が細分化されタコツボ化していることだ。〈このような状況では〉物事についての全体像は容易には生まれてこないし、それは知識が蓄積されないということに反映されるだろう、と Mustajoki はいう。

【25】我々は「専門家の文化」の中に生きている

Moderni sivilisaatio nojautuu kuitenkin tiedon ja tietämisen erikoistumiseen – elämme asiantuntijoiden kulttuurissa. Tämä näkyy kenties selkeimpänä tieteen ja teknologian aloilla. Esimerkiksi korkeatasoinen teknologia on monien eri erityistiteiden yhteen nivoutunut, kapitalistisen markkinatalouden rahoittama sekä voitontavoittelun ohjaama tuote.

■ 語句・文法

sivilisaatio「文明」／nojautua「寄りかかる、依存する」／tietämisen「知ることの、知識を身に着けることの」[属]<tietäminen 動名 <tietää／erikoistumiseen「専門化することへ、特化することへ」[入]<erikoistuminen 動名 <erikoistua <erikoinen／asian-tuntijoiden「専門家たちの」[複属]<-tuntija <tuntea／selkeimpänä「もっとも明確なものとして、もっとも顕著に」[様]<selkein 最 <selkeä／aloilla「領域において、分野において」[複接]<ala／korkea-tasoinen「高いレベルの」／monien eri erityis-tieteiden「多くの異なる特殊科学の」(monien erityis-tieteiden [複属]<moni erityis-tiede。eriは格変化しない語。「特殊科学」とは基礎物理学以外の学問分野をさすようですが、正直なところ私は明確に理解できていません。)／yhteen「一つへ」[入]<yksi／nivoutunut「絡み合ったような」能過分 <nivoutua／kapitalistisen markkina-talouden「資本主義的な市場経済の」[属]<kapitalistinen markkina-talous／rahoittama「資金援助するような、資金提供するような」動分 <rahoittaa <raha／voiton-tavoittelun「利益追求の」[属]<-tavoittelu <tavoitella／ohjaama「導くような」動分 <ohjata

● フィンランド語理解のための訳例

現代の|文明は|依存する|しかしながら|知識の|そして|知識を身に着けることの|専門化へ—
我々は生きる|専門家たちの|文化の中で。これは|見える|おそらく|もっとも明確に|科学の|そして|
科学技術の|領域において。たとえば|高いレベルの|科学技術は|である|多くの|さまざまな|特殊
科学の|一つへ|絡み合ったような、|資本主義的な|市場経済の|資金提供するような|さらに|利益
追求の|導くような|産物。

◎ 意訳

しかし、現代文明は知識や知識を身に着けることが専門化していることに依存してしまっている—つまり、我々は専門家の文化の中に生きているのである。このことがおそらくもっとも明確に表れているのが科学や科学技術の領域だろう。たとえば高度な科学技術は資本主義的市場経済により資金提供され、利益追求という考え方に導かれ、多くの特殊科学が一つに絡み合った結果として生まれた産物である。

【26】「専門家の文化」の中では、知識は多くの人々の手の届かないところにある

Kuitenkin myös monet muut yhteiskuntiemme osa-alueet ovat alistuneet tiedon tai tietämisen ja hallinnonin eriytymiselle. Erityisosaamisen käänköpuolena on usein se, että jonkin osa-alueen ymmärtäminen on enemmistön ulottumattomissa.

■ 語句・文法

yhteis-kuntiemme「我々の社会の」[複属]+ 複 1 所接 <-kunta／osa-alueet「(部分)領域は」／ovat alistuneet「屈服している、従っている」複 3 完 <alistua <alistaa <alinen <ala／hallinnonin「管理の、統治の」[属]<hallinto <hallita／eriytymiselle「分化することへ」[向]<eriytyminen 動名 <eriytyä <eri／erityis-osaamisen「専門知識・技能の、専門能力の」[属]<-osaaminen 動名 <

osata/kääntö-puolena「裏側として、裏返しとして」[様]<-puoli (kääntö < kääntää) / se, että ~
「~であること」/ jonkin「ある~」[属]< jokin/enemmistön「多数派の」[属]< enemmistö <
enempi ⇒ paljo(n) ⇔ vähemmistö < vähempi < vähä(n) / ulottumattomissa「手の届かないこ
とろに」[複内]< ulottumaton 否分 < ulottua ⇔ ulottuvilla

●フィンランド語理解のための訳例

しかしながら|また|多くの|他の|我々の社会の|領域は|屈服している|知識の|あるいは|知識を
身に着けることの|そして|管理の|分化することへ。専門知識・技能の|裏返しとして|ある|しばしば|
〈次の〉[ことが、|ある|領域の|理解することは|ある|多数派の|手の届かないことに]。

◎意識

しかし、我々の社会においては多くの他の領域も、やはり知識あるいは知識を身に着けること、そし
て管理の分化というものに支配されるものとなっている。専門的な知識・技能〈が必要であるとされ
ること〉の裏返しと、ある領域について理解することは多くの人々の手の届かないところにあるとい
うことがしばしばある。

【27】結果として「民主主義の赤字」が常態化している

Yhteiskuntarakenteiden perustuminen tiedon ja hallinnan eriytymiselle tekee
niistä usein monimutkaisia ja läpinäkymättömiä. Seurauksena on eettisen ja
poliittisen toiminnan mahdollisuuksien kaventuminen ja niin kutsutun
demokratiavajeen normalisoituminen niin ruoantuotantoa, terveyttä, hyvinvointia,
asumista kuin muitakin talouden prosesseja koskevissa kysymyksissä.

■語句・文法

yhteis-kunta-rakenteiden「社会構造の」[複属]<-rakenne < rakentaa / perustuminen「もとづくこ
と」動名 < perustua / hallinnan「管理の、制御の」[属]< hallinta < hallita / tekee niistä moni-
mutkaisia ja läpi-näkymättömiä「それらを複雑な、そして不透明なものにする」(”tehdä + [出] + [補
語]”で「~を…にする(~から…をつくる)」という意味を表します。niistä [出]< ne, moni-mutkaisia
[複分]< -mutkainen, läpi-näkymättömiä [複分]< -näkyvätön 否分 < näkyä) / eettisen「倫理
的な、道徳上の」[属]< eettinen ⇒ etiikka / kaventuminen「狭まること」動名 < kaventua <
kaventaa < kapea / niin kutsutun「いわゆる」[属]< niin kutsuttu (kutsuttu 受過分 < kutsua) /
demokratia-vajeen「民主主義の赤字の」[属]< -vaje (「民主主義の赤字」とは、欧州連合加盟国
において各加盟国の国民の意思が必ずしも反映されていないのではないかとすることを表したり、
あるいは地球全体で見ればグローバルイゼーションと呼ばれる動きの中で人々の意思が民主的な形
で反映されない状況が生まれていることをさすようです。) / normalisoituminen「常態化すること」
動名 < normalisoitua < normalisoida ⇒ normaali / ruoan-tuotantoa「食糧生産に」[分]< -
tuotanto / terveyttä「健康に」[分]< terveys < terve / hyvin-vointia「福祉に、厚生に」[分]< -
vointi < voida / asumista「住むことに、住宅に」[分]< asuminen 動名 < asua / muitakin「また他

の」[複分]+ -kin < muu/prosesseja「過程に、プロセスに」[複分]< prosessi/koskevissa「かかわるような」[複内]< koskeva 能現分 < koskea

●フィンランド語理解のための訳例

[社会構造の|もとづくことは|知識の|そして|管理の|分化することへ]|つくる|それらから|しばしば|複雑な|そして|不透明な。結果として|ある|[倫理的な|そして|政治的な|活動の|可能性の|狭まる|ことが]|そして|[いわゆる|民主主義の赤字の|常態化することが|食糧生産に、|健康に、|福祉厚生に|住宅に|そして|また他の|経済の|過程に|かかわるような|問題において]。

◎意識

社会構造が知識や管理の分化にもとづくことにより、それら社会構造はしばしば複雑で不透明なものとなっている。その結果として倫理的行動や政治的活動のもつ可能性は狭まり、食料生産、保健、福祉・厚生、住宅、その他の経済〈活動〉の過程にかかわる問題において、いわゆる民主主義の赤字が常態化してしまっている。

★補足

人文科学の軽視、さらに研究・学問の細分化やタコツボ化が政治的・倫理的行動の可能性を狭め、その結果として「民主主義の赤字」が常態化しているという指摘を確認しました。それでは、人文科学や歴史学はどのような役割を担うのでしょうか。

【28】人文科学は民主主義や人権と手に手を取って進むもの

Sen on osoitettu muun muassa kulkevan käsi kädessä demokratian ja ihmisoikeuksien kanssa, tuottavan taloudellista hyötyä vaikkapa peleihin tuotettavien sisältöjen muodossa ja kasvattavan kriittisiä sekä päättelykykyisiä kansalaisia.

■語句・文法

sen「それ(ここでは「人文科学研究」のこと)」/ sen on osoitettu kulkevan ~, tuottavan ~ ja kasvattavan ~「それは~進み、~生み出し、そして~育てると示されている」(on osoitettu「示されている」受完 < osoittaa, kulkevan[属]< kulkeva 能現分 < kulkea, tuottavan[属]< tuottava 能現分 < tuottaa, kasvattavan[属]< kasvattava 能現分 < kasvattaa) [分構]/ käsi kädessä「手に手を取って」/ ihmis-oikeuksien「人権の」[複属]< -oikeus/vaikkapa「たとえば、~でも」/ peleihin tuotettavien sisältöjen muodossa「ゲームのために作り出される中身という形で」(peleihin[複入]< peli, tuotettavien[複属]< tuotettava 受現分 < tuottaa, sisältöjen[複属]< sisältö < sisältää < sisä-)/ päättely-kykyisiä「判断力のある、理性的な」[複分]< -kykyinen < kyky / kansalaisia「市民を」[複分]< -lainen

●フィンランド語理解のための訳例

それは|示されている|とりわけ|進むのだと|手に手を取って|民主主義の|そして|人権の|一緒に、

|生み出すのだと|経済的な|利益を|たとえば|ゲームへ|作り出されるような|内容の|形で|そして|
育てるのだと|批判的な|そして|判断能力のある|市民を。

◎意訳

人文科学というものは民主主義や人権と手を取り合って歩むものであり、そして、たとえばゲームのためのコンテンツといった形で経済的利益を生み出すものであり、さらには批判的で判断能力のある市民を育てるものだということが示されている。

【29】新しい歴史研究は女性や少数民族に自らの歴史に対する権利を与える

Uutta historiaa voidaankin pitää Sirkka Ahosen tapaan eräänlaisena vapautusliikkeenä, koska sen esiinmarssi merkitsi vapautumista deterministisestä historiankirjoituksesta ja toisaalta toi aiemmin sivuun jääneille ryhmittymille, kuten naisille ja erilaisille etnisille ryhmille oikeuden omaan historiaan. (Ahonen 1997)

■語句・文法

utta historiaa「新しい歴史(研究)を」(この「新しい歴史(研究)」とは資料Ⅲ-6でも触れ、この資料の【17】【18】でも確認した「歴史認識」といったことを重要視するような、1970年代前後にドイツを中心に発展した歴史研究のことをさします。) voidaankin「～することもできる」受現 + -kin < voida / pitää「みなす」(+ [分]+ [様]) / Sirkka Ahosen tapaan「Sirkka Ahonen のように」(tapaan [入] < tapa. Sirkka Ahonen は 1939 年生まれの教育学者で、とくに歴史・社会教育を専門とするようです。) / erään-laisena vapautus-liikkeenä「ある種の解放運動として」[様] < erään-lainen vapautus-liike (erään [属] < eräs, vapautus < vapauttaa < vapaa) / esiin-marssi「登場は、出現は」 / vapautumista「解放されることを、自由になることを」[分] < vapautuminen 動名 < vapautua < vapauttaa / deterministisestä historian-kirjoituksesta「決定論的な歴史記述(歴史学)から」[出] < deterministinen historian-kirjoitus / toisaalta「一方では」⇒ toinen / aiemmin sivuun jääneille ryhmittymille「以前は排除されていたような集団へ(以前は脇へ残っていたような集団へ)」(sivuun「脇へ」[入] < sivu, jääneille [複向] < jäänyt 能過分 < jäädä, ryhmittymille [複向] < ryhmittymä < ryhmittyä < ryhmittää < ryhmä) / etnisille「民族的な、エスニックな」[複向] < etninen / oikeuden「権利を」[属対] < oikeus < oikea

●フィンランド語理解のための訳例

新しい歴史<学>を|こともできる|みなす|Sirkka Ahonen の|ように|ある種の|解放運動として、|
なぜなら|その|登場は|意味した|解放されることを|決定論的な|歴史記述から|そして|一方では|
もたらした|以前は|脇へ|残っていた|集団へ、|<次> [のような|女性たちへ|そして|さまざまな|民
族的な|集団へ]|権利を|自らの|歴史に対する。

◎意訳

新たな歴史学は、Sirkka Ahonen がいうように、ある種の解放運動とみなすこともできるだろう。な

ぜなら、その登場は決定論的な歴史学からの解放を意味したし、また一方では女性やさまざまな民族集団のような、以前は疎外されていた集団に自らの歴史に対する権利をもたらしたからだ。

★補足

人文科学が軽視されているのはフィンランドでも同じだとしばしば耳にします。一方で、人文科学の意義について政治家など影響力のある人々に対して行われた調査の結果をみると、次の【30】【31】にあるように、なかなか興味深いことがわかります。

【30】フィンランドにおいて影響力をもつ人々は人文科学を高く評価している

Suomalaisista vaikuttajista näet peräti 98% arvioi humanistisen tutkimuksen yhteiskuntamme kannalta hyödylliseksi. Tulos on sitäkin vakuuttavampi, kun ehdoton leijonanosa vastaajista pitää humanistista tutkimusta jopa erittäin hyödyllisenä.

■語句・文法

vaikuttajista「(政治家など)大きな影響力をもつ人々のうち、政策決定者たちのうち」[複出] < vaikuttaja < vaikuttaa / näet「すなわち」 / peräti「～もの、なんと」 / arvioida「評価する」 < arvio < arvata / yhteis-kuntamme kannalta「我々の社会の観点から」(yhteis-kuntamme [属]+ 複 1 所接 < -kunta) / 「hyödylliseksi」有益なものだと」[変] < hyödyllinen < hyöty / sitäkin vakuuttavampi「それだけより説得力があるような」(sitä-kin は se の分格 sitä に-kin がついたものですが、後から出てくる kun 以下の内容を受けて「それだけ」という意味で vakuuttavampi という比較級の意味を強めています。vakuuttavampi「より説得力のあるような」比 < vakuuttava 能現分 < vakuuttaa) / ehdoton「無条件の、絶対的な」 < ehto / leijonan-osa「大部分は、絶対的多数は」 / vastaajista「回答者たちのうち」[複出] < vastaaja < vastata / jopa「～でさえ、～までも」 / erittäin「きわめて」 < eri

●フィンランド語理解のための訳例

フィンランドの|影響力をもつ人々のうち|すなわち|なんと|98%が|評価している|人文系の|研究を|我々の社会の|観点から|有益なものだと。結果はである|それだけ|より説得力のあるような、| <次> [なので|絶対的な|大部分は|回答者たちのうち|みなす|人文系の|研究を| <次のように> [さえ|きわめて|有益だと]。

◎意訳

すなわちフィンランドの影響力をもつ人々のうち 98 パーセントもが、我々の社会という観点に立ち人文系の研究を有益なものだと評価している。この結果は、回答者たちのうち絶対的多数が人文系研究をきわめて有益だとさえみなしていることを考えれば、それだけ説得力のあるものだといえる。

【31】医学に次いで重要な分野だと人文科学は評価されている

Todellinen yllätys on se, että vaikuttajat arvostavat humanistisia tieteitä kaikista aloista toiseksi eniten, heti lääketieteen jälkeen. Peräti 96 % haastatelluista päättäjistä ja vaikuttajista arvostaa humanistisia tieteitä. Vertailussa jäävät taakse niin kansan korkealle arvostamat juridiikka ja teknillistieteet kuin maa- ja metsätieteetkin. Syinä humanistisen tutkimuksen korostuneeseen henkilökohtaiseen arvostukseen nousevat vaikuttajahaastatteluissa esiin samat asiat kuin joilla perusteltiin alan hyötyä Suomelle: sivistys, ihmisyyden ja yhteiskunnan ymmärtäminen.

■ 語句・文法

yllätys「驚き」< yllättää/ arvostaa「高く評価する」< arvo/ kaikista aloista「すべての分野のうちで」
[複出] (kaikista < kaikki, aloista < ala) / toiseksi eniten「二番目に多く(高く)」(toiseksi [変] < toinen, eniten 最 < paljon) / lääke-tieteen「医学の」[属] < -tiede/ jälkeen「~の後に、~の次に」
/ haastatelluista päättäjistä ja vaikuttajista「インタビューされた(意思)決定者や影響力のある人々のうち、調査対象となった(政策)決定者や影響力をもつ人々のうち」[複出] < haastateltu päättäjä ja vaikuttaja (haastateltu 受過分 < haastatella) / vertailussa「比較において」[内] < vertailu < vertailla < verrata/ jäädä taakse「取り残される(後ろに残る)」/ korkealle arvostamat「高く評価するような」(korkealle [向] < korkea, arvostamat [複主] < arvostama 動分 < arvostaa) / juridiikka「法学」/ teknillis-tieteet「工学(科学的な知識を実際的な課題に適用しようとする学問分野)」[複主] < -tiede/ maa- ja metsä-tieteet「地球科学や森林科学」/ syinä「理由として」[複様] < syy/ korostuneeseen henkilökohtaiseen arvostukseen「強調された個人的な評価に対する」[入] < korostunut henkilökohtainen arvostus (korostunut 能過分 < korostua, arvostus < arvostaa) / nousta esiin「登場する、現れる、明らかになる」/ vaikuttaja-haastatteluissa「影響力のある人々に対するインタビューにおいて」[複内] < -haastattelu < haastatella/ samat asiat kuin ~「~と同じ事柄が」/ joilla「それらにより」[複接] < joka/ perusteltiin「根拠づけられた」受過 < perustella/ sivistys「教養」< sivistää/ ihmisyyden「人間性の、人間らしさの、人間であることの」[属] < ihmisuus < ihminen

● フィンランド語理解のための訳例

本当の|驚きは|である|<次の> [ことが|影響力をもつ人々は|(高く)評価する|人文系の|科学を|すべての|分野のうちで|二番目に|もっとも多く、|すぐ|医学の|次に。なんと|96パーセントが|インタビューされた|決定者たちのうち|そして|影響力のある人たちのうち|(高く)評価する|人文系の|科学を]。比較において|残る|後ろへ|[民衆の|高く|評価するような|法学|そして|工学|同じく|地球科学|そして|森林科学も。[理由として|人文系の|研究の|強調されたような|個人的な|評価への]|上がる|影響力のある人々に対するインタビューにおいて|前へ|[同じような|事柄が|<次のこと>と|それらにより|根拠づけられる|分野の|利益を|フィンランドへの:教養、|人間性の|そして|社会の|理解すること]。

◎意訳

本当に驚くべきことは、影響力のある人々が人文科学を医学に次いで二番目に高く評価していることである。インタビューされた政策決定者や影響力のある人々のうちなんと96パーセントもが人文科学を高く評価している。比較においては、一般の人々が高く評価している法学や工学、同じく地球科学や森林科学も〈人文科学の〉後塵を拝している。〈インタビューされた政策決定者や影響力のある人々の間では〉人文科学が個人レベルで高く評価されているが、その理由として浮かび上がってくるのは、フィンランドにとって人文科学という分野が有益だと根拠づける理由と同じことである：つまり、〈人文科学を重要だと考える理由は、それが我々に〉教養を、そして人間や社会に対する理解〈をもたらしてくれるからである〉。

★補足

それでは、この資料の結論部分へ入っていきます。それは「人文科学」と「利益」という問題へ収束していきます。

【32】人文科学なしで存在できる社会などあるのか

Joskus kysytään, mitä hyötyä on humanistisesta tutkimuksesta. Kysymys on mielekäs, mutta osuu harhaan. Pikemminkin on mietittävä, onko millään yhteiskunnalla varaa olla ilman humanistista tutkimusta. Ja on jopa pohdittava, voiko olla yhteiskuntaa ilman sitä.

■語句・文法

kysytään「尋ねられる」受現 < kysyä / mitä hyötyä on「どのような利益があるのか」 / mielekäs「合理的な、有意義な」 < mieli / osua harhaan「的を外す、誤解を招く」 (harhaan [入] < harha「幻想」) / pikemminkin「むしろ」 / on mietittävä「考えるべきだ」 (mietittävä 受現分 < miettiä) / millään yhteis-kunnalla「いかなる社会にも」 (millään [接] < mikään) / vara「余裕、余地、可能性」 / on pohdittava「検討すべきだ」 (pohdittava 受現分 < pohtia) /

●フィンランド語理解のための訳例

ときに|尋ねられる、|何の|利益が|あるのか|人文系の|研究から。質問は|合理的である、|しかし|当たる|幻想へ。むしろ|考えるべきだ、|[あるのか|いかなる|社会にも|余裕が|いる|[なしで|人文系の|研究]。そして|できえ|検討すべきだ、|ありうるのか|ある|社会は|それなしで。

◎意訳

ときとして人文系の研究からはどのような利益が得られるのかと尋ねられることがある。そのような疑問は有意義なものではあるが、しかし誤解を招くものでもある。いかなる社会も人文系の研究なしでいられる余裕などあるのかということをもしろ考えるべきである。そして、人文系の研究なしで社会は存在しうるのかどうかということさえ熟考すべきである。

【33】人文科学が生み出すのはセメントでもジャガイモでもない

Vaikka kysymykset hyödyistä ja tuottavuudesta ovat mielekkäitä, ne eivät ole humanistista tutkimusta arvioitaessa tärkeimpiä. Ministeri Raimo Sailas on todennut, että ”tuottavuuden merkitys ja mittaaminen on helppoa silloin, kun valmistetaan sementtiä tai kasvatetaan perunoita”. Humanistiset alat eivät tuota kumpaakaan. On hyvin vaikeaa, ehkä mahdotonta, keksiä sellaista mittanauhaa, joka kuvaisi humanistisen tutkimuksen hyötyjä yhteismitallisesti, ja vieläpä omassa ajassamme todennettavasti.

■ 語句・文法

tuottavuudesta「生産性について」[出]< tuottavuus < tuottava 能現分 < tuottaa / mielekkäitä「合理的な、有意義な」[複分]< mielekäs / arvioitaessa「評価するときに」受 e 不 [内] [時構] < arvioida / tärkeimpiä「もっとも重要な」[複分]< tärkein 最 < tärkeä / ministeri「大臣、名誉大臣の称号」 / Raimo Sailas (1945-2020) はフィンランドの官僚で長く財務省で活躍したようです。 / on todennut「述べている」単 3 完 < todeta / mittaaminen「計ること、測ること」動名 < mitata / valmistetaan「作られる」受現 < valmistaa / kasvatetaan「育てられる」受現 < kasvattaa < kasvaa / kumpaakaan「どちらをも (~ない)」[分]< kumpikaan ⇒ kumpikin / keksiä「考え出す、発明する」 / mitta-nauha「尺度を、巻尺を、メジャーを」[分]< -nauha / kuvaisi「描くだろう」 / yhteismitallisesti「共通の基準で測れるように、比較できるように」[副]< -mitallinen / vieläpä「さらには」 / omassa ajassamme「我々自身の時代において」(ajassamme [内] + 複 1 所接 < aika) / todennettavasti「実証できるように」[副] < todennettava 受現分 < todentaa「実証する、証明する」< tosi)

● フィンランド語理解のための訳例

〈次のようだ〉[としても|質問は|利益について|そして|生産性について|合理的である]|、それらは|ではない|[人文系の|研究を|評価するときに]|もっとも重要な。名誉大臣の称号をもつ|Raimo Sailas は|述べている、|〈次の〉[ことを|「生産性の|意味は|そして|測ることは|容易である|〈次の〉ときに|作られる|セメントを|あるいは|育てられる|ジャガイモを]」。人文系の|分野は|生産しない|どちらをも。である|とても|難しい、|おそらく|不可能な、|考え出すことは|〈次のような〉尺度を、|それは|描くだろう|人文系の|研究の|利益を|共通の基準で測れるように、|そして|さらには|自分の|我々の時代において|実証できるように。

◎ 意識

利益や生産性に関する問いは有意義だとしても、それらは、人文科学の研究を評価するうえではもっとも重要なものではない。名誉大臣の称号をもつ Raimo Sailas は「生産性のもつ意味やそれを測定することは、セメントを作ったりジャガイモを育てたりするときには容易だろう」と述べている。〈そして〉人文科学の分野はそれらのどちらも生み出すものではないのである。人文科学研究のもたらず利益を比較できるような形で、さらには我々自身の時代において実証できるような形で描き出す

ことのできるような基準というものを考え出すことは非常に難しく、おそらく不可能なことだろう。

【34】人文科学を評価するのは利益ではなく意義でなければならない

Arvioitaessa humanistista tutkimusta tärkeintä ei olekaan hyöty, vaan merkitys. Humanistinen tutkimus on yksi perustava inhimillisen toiminnan muoto. Oman paikkamme määrittelyä maailmassa ei voida ulkoistaa millekään kojeelle tai ihmisestä riippumattomalle sovellukselle, vaan ihmisen itsensä on se hahmotettava sivistysperinteensä valossa. Humanistinen tutkimus merkitsee järjestelmällistä pyrkimystä ymmärtää itseämme, toisiamme ja maailmaamme sillä ainoalla tavalla, joka on meille mahdollista, mutta eri merkityksessään myös tavoittelemisen arvoista: inhimillisesti.

■ 語句・文法

arvioitaessa「評価するときに」受 e 不 [内] [時構] < arvioida / tärkeintä「もっとも重要な」[分] < tärkein 最 < tärkeä / perustava「基盤となるような」能現分 < perustaa / inhimillisen「人間的な、人間の」[属] < inhimillinen ⇒ ihminen / paikkamme「我々の場所の」[属] + 複 1 所接 < paikka / määrittelyä「定義を、特定を」[分] < määrittely < määritellä / ei voida「できない」受現否 < voida / ulkoistaa「外部委託する」< ulkoinen < ulko- / millekään kojeelle「いかなる装置へも」[向] < mikään koje / ihmisestä riippumattomalle sovellukselle「人間から独立したアプリケーションに」(riippumattomalle [向] < riippumaton 否分 < riippua, sovellukselle [向] < sovellus「アプリケーション」< soveltaa) / ihmisen itsensä on hahmotettava「人間自身が描き出さなければならない(理解しなければならない)」(itsensä [属] + 単 3 所接 < itse, hahmotettava 受現分 < hahmottaa) / sivistys-perinteensä「自らの文化的伝統の」[属] + 単 3 所接 < -perinne / valossa「照らして、光の中で」[内] < valo / järjestelmällistä pyrkimystä「体系だった試みを」[分] < järjestelmällinen pyrkimys (järjestelmällinen < järjestelmä, pyrkimys < pyrkiä) / itseämme「我々自身を」[分] + 複 1 所接 < itse / toisiamme「我々おたがいを」[複分] + 複 1 所接 < toinen / sillä ainoalla tavalla, joka ~「~という唯一の方法で」(sillä ainoalla tavalla [接] < se ainoa tapa) / eri merkityksessään「別の意味において」(merkityksessään [内] + 単 3 所接 < merkitys) / tavoittelemisen arvoista「追求する価値のあるような」(tavoittelemisen [属] < tavoittelemisen 動名 < tavoitella, arvoista [分] < arvoinen < arvo / inhimillisesti「人間的に」[副] < inhimillinen

● フィンランド語理解のための訳例

[評価するときに|人文系の|研究を]|もっとも重要な|ではないのである|利益は|<そうではな<|意味が|<もっとも重要である>。人文系の|研究は|である|一つの|基盤となるような|人間的な|行動の|形。[自らの|我々の場所の|特定を|世界における]|できない|外部委託する|いかなる|装置へも|あるいは|人間から|独立した|アプリケーションへ、|<そうではな<|人間は|自分自身は|それを|描き出さなければならない|自らの文化的伝統の|光の中で。人文系の|研究は|意味する|体系だった|試みを|理解しようとする|我々自身を、|我々おたがいを|そして|我々の世界を|<次の

ような唯一の方法でそれはである我々にとって可能な、しかし別の意味においてはまた追求することの価値のあるような：人間的に。

◎意識

人文科学の研究を評価するときに、もっとも重要なことは利益ではなく意義である。人文科学の研究は基本的な人間的活動の一つの形態である。世界における我々の位置を特定することは、いかなる装置にも、あるいは人間から独立したアプリケーションにも任せることはできず、人間自身が自分たちの文化的伝統に照らしてそれを描き出さなければならないのである。人文系の研究とは我々自身を、我々おたがいを、そして我々の世界を理解しようとする体系だった試みのことを意味するのだが、さらにそれは我々にとって唯一可能な方法で、しかしまた追求する価値のあるような方法で行われるのであり、その方法とはつまり「人間らしく」ということである。

【35】結論はこれだ!

Älä kysy humanistisen tutkimuksen hyötyä vaan sen merkitystä.

●フィンランド語理解のための訳例

尋ねるな人文系の研究の利益をくそうではなくその意味を。

◎意識

人文系の研究がどのような利益を生み出すのかではなく、そのもたらす意義を問え。

★補足

フィンランドではスウェーデン統治時代の 1640 年に、Turku (スウェーデン語名: Åbo) に Kuninkaallinen Turun Akatemia (スウェーデン語名: Kungliga Akademien i Åbo) という大学が設立されています。その後この大学は Helsinki に移転することとなり、Turku に大学はなくなります。そして、Helsinki 大学がスウェーデン語により教育を行う場所だったこともあり、Turku では 1917 年の独立前後からフィンランド語で教育を行う最初の大学を設立するという議論が巻き起こります。大学設立の運動は 22,040 名もの寄付者を集め、1920 年に大学設立が決定されます。こうして生まれた Turun yliopisto は、学生数ではフィンランドにおける三番目に大きな総合大学として教育を担っています。

私はかつて学生を連れて何度も Turku を訪れました。学生たちにはフィンランド語の授業を受けさせておいて、私は自分の研究を進めたり、Turku の街をぶらぶらしながら過ごしていました。そして、Turku 大学の中のベンチに座ってよく休憩をしたものです。そのベンチの前にある建物の壁にはこう書かれています。

TURUN YLIOPISTO
VAPAAN KANSAN LAHJA
VAPAALLE TIETEELLE

トゥルク大学
自由な民衆の贈り物
自由な科学へ

ベンチに座って建物の壁に描かれたこの言葉を見るたびに、なんとも言えない幸福な気持ちになりました (<<https://www.utu.fi/fi/yliopisto/historia>>などで写真が見られると思います)。

◆出典

【1】【4】【24】:

”Ymmärrystä etsimässä”. *Helsingin yliopisto, Humanistinen tiedekunta*. (29.11.2016)
<<https://www.helsinki.fi/fi/humanistinen-tiedekunta/ajankohtaista/ymmarrysta-etsimassa>>.
[最終閲覧日:2024年7月20日]

【2】【3】【28】【32】【33】【34】【35】:

”Älä kysy humanistisen tutkimuksen hyötyä vaan sen merkitystä”. *Oulun yliopisto*. (01.10.2019).
<[【5】【6】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】](https://www oulu.fi/fi > Blogit > Science with Arctic Attitude (fi) > Älä kysy humanistisen tutkimuksen hyötyä vaan sen merkitystä> . (Kirjoitus on julkaistu sanomalehti Kalevan Vieras-kolumnina 1.10.2019. Se perustuu Jouni-Matti Kuukkasen puheeseen Oulun yliopiston 60-vuotisjuhlassa 2.9.2019.)>
[最終閲覧日:2024年7月20日]</p></div><div data-bbox=)

Hallamaa, Teemu. 2023. ”Tekoälyn aikakaudella humanistiset tieteet ovat avain lajimme selviytymiseen, sanoo tekoälytutkija Joscha Bach”. *yle*.
<<https://yle.fi/a/74-20037537>>

[最終閲覧日:2024年7月20日]

【7】

”etiikka | moraalifilosofia | moraalitiede | moraaliteoria | moraali”. *Tieteen termipankki*.
<<https://tieteentermipankki.fi/wiki/Filosofia:etiikka>>

[最終閲覧日:2024年7月20日]

【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】【23】【29】:

Berg van den, Marko. 2013. ”Näkökulmia historiatietoisuuteen”. Toivanen, Paula & Marja Laine. *Kestävä kasvatustutkimus – kulttuurin etsimässä, Suomen kulttuuriperintökasvatuksen seuran julkaisu* 6. Erweko Oy. 132-138.
<https://www.kulttuuriperintokasvatus.fi/wp-content/uploads/2015/04/Kestava_kasvatus.pdf>

【15】【16】【17】134 ページ、【18】133 ページ、【19】【20】【21】135 ページ、
【22】135-136 ページ、【23】【29】136 ページ

【25】【26】【27】:

Alhojärvi, Tuomo, Sanna Ryyänen, Niklas Toivakainen ja Ruby van der Wekken. 2015. ”Solidaarisuustalous”. Jakonen, Mikko ja Tiina Silvasti (toim.). *Talouden uudet muodot*. Into. 210-230.

【25】【26】225 ページ、【27】226 ページ

【30】【31】:

Heikkilä, Tuomas & Ilkka Niiniluoto. 2016. *Humanistisen tutkimuksen arvo*. Opuscula Instituti Romani Finlandiae V.
<<https://irfrome.org/wp/wp-content/uploads/2016/12/humanistisentutkimuksenarvo.pdf>>.

【30】34 ページ、【31】35 ページ